

神戸新聞 2018年(平成30年)6月17日 日曜日

神戸新聞を読んで

「当たり前」を変える改革を



特定非営利活動法人ワーク・ライフ・コンサルタント代表理事

藤島 一篤(ふじしま・かずしげ)=神戸市

技術の進歩はこれまで当たり前だったことをえていく。在宅勤務で通勤が不要となる。現場にいなくとも工場の稼働状況が遠隔地で分かり、出張がなくなる。働き方改革も「当たり前」を変え、経営者や労働者の仕事に対する意識、行動をいや応なく変えていく。

「昨夜は仕事で一睡もできなかつたよ」。私がかつて勤めていた会社で何度も耳にし、口にもしたセリフだ。当時は長時間労働=仕事に熱心とみる風潮もあつた。長時間労働による睡眠不足は、生産性を低下させる。9日のくら

し面「慢性的な寝不足、見直しを」では日本人の平均睡眠時間は約6時間半で、主要28カ国中で最短である。寝不足だと高度な意思決定をつかさどる脳の働きが低下するとの医師のコメントが付いてい

る。長時間労働で寝不足が続くと、仕事熱心から一転、ミスを犯しやすい人になりかねない。この寝不足自慢?の意識が変わる気配はあるが、果たして長時間労働是正の動きや実態はどうなのか。

8日朝刊1面「県内事業所違法長時間労働125カ所」では、労働基準監督署の立ち入りがあり、でも根本的な解決に至らず、ある会社では働き方改革が叫ばれているものの業務量は変わらずにサービス残業が続いているとの指摘がなされている。働き方改革法案では罰則付きで残業時間の上限規制を導入しようとしている。しかし、規制しても裏に隠れてしまう懸念が残る。今後、神戸新聞には規制強化の陰に潜む抜け道や落とし穴にも警鐘を鳴らしてほしい。

また、よく目にするのは、ノーワーク(LB)の各社の具体例をまとめた残業データはあつても形骸化していくケースだ。長時間労働は頑固に居座り続けようとしているが、どうすればこの問題を解決できるの

か。やはり、これまで当たり前だった業務の中身にメスを入れなければならぬ。そこで「三つの化力」=標準化・平進化・適正化を提倡している。あるメーカーはまず標準化に取り組み、業務の流れを確認した。

紙と電子端末への同時入力としていた業務を見つけ、電子端末のみの入力とした結果、業務効率化と仕分け業務担当の女性がドライバーの助手席に同乗して仕事を体験し、疑問点などを報告することで業務の適正化や職種転換による人員配置の平進化に取り組んだ。6日の地域経済面「WLB改善策を冊子に」では、私が勤める「ひょうご仕事と生活センター」によるワーク・ライフ・バランス(WLB)の各社の具体例をまとめた冊子が紹介された。神戸新聞と支援機関とともに新たな当たり前ができる」という意味で、生まれる様子を伝えていくことができたらと、あらためて思う。